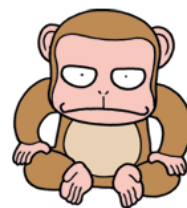


うす紅の秋桜が 秋の日の何気ない陰溜りに揺れている  
さだまさし



15 どっしりとした猿

## 【新しい仕事の依頼＝前回の仕事への評価】

アラレス通信で取り上げてきた校正漏れの事例は、ほとんどがクライアントから報告をもらったものです。「こんな校正漏れがありましたよ。今後の作業の精度を高めるための参考にしてくださいね。」というような文面ですが、校正漏れの報告というのはクライアントからの「お叱り」であり、イエローカード（＝警告）に他なりません。

それでは逆に、「お叱り」ではなく、「お褒め」の報告はあるのでしょうか。実は校正業務は、良い評価の連絡がクライアントから来ることがほとんどありません。なぜならクライアントに納品する校正結果は「校正箇所は全て洗い出しました。」と言えるものでなければならないからです。つまり、クライアントにとって校正漏れがないというのは当たり前のことなのです。

初めて校正業務をしたクライアントに「アラレスの前の業務はどうだったでしょうか。」と聞くと、「今のところ、校正漏れの報告はないですね。次の仕事を依頼したら、前回の仕事が良かったと思ってください。」というような返答が多いです。

## 【校正の依頼がたくさん来ています!!】

現在、H28 中学教科書の改訂本の初校が出揃って、校正の依頼がピークを迎えつつあります。ほぼ毎日、クライアントから依頼や日程の調整などの連絡があります。それらのクライアントの多くは、昨年、H27 小学教科書改訂期に仕事をしたクライアントです。つまり、過去のアラレスの校正業務を高く評価した上での発注なのです。

ある書店売り教材の出版社からは、「改訂本を販売した年の4月から5月は、お客からのクレームの電話が鳴りっぱなしで、本来の業務ができない。しかし、昨年はアラレスに校正の大部分を担当してもらったので、クレーム対応に取られる時間が少ないよ。スムーズに中学改訂本の制作が進めることができている。」と言ってもらいました。当然、その出版社からは今年の中学改訂本の校正でも、多くの発注が来ています。

## 【スタッフの方々のおかげです。】

クライアントからこれだけ多くのリピートの発注がくるのも、発注された業務を断ることなく引き受けることができるのも、スタッフの方々の過去の丁寧な作業と、業務に対する真摯な姿勢のおかげです。今後もアラレス通信では、情報の共有のため校正漏れの報告を掲載しますが、その裏にはクライアントからアラレス校正スタッフへの高い評価があります。

これから2月初旬にかけて、スタッフの方々には、櫻井・土谷・堀江から多くの依頼をさせていただくことになるかと思いますが、【新しい仕事の依頼＝前回の仕事への評価】です。ぜひ、前向きなご検討をよろしく願います。



アラレス社長が品川駅で、見ると幸せになると噂される、ドクターイエロー（検査用の黄色い新幹線車両）を見たそうです。このイエローは“幸せ”のイメージということでしょうか。

僕にとってイエローは、“カレー大好き”のイメージです。



文責：沈黙のひつじ